

ドイツ文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
ドイツ文学概論Ⅰ	ドイツ語文献講読を通してドイツ文学研究への導入をはかる	2	松崎 裕人	3	水	4	1
ドイツ文学概論Ⅱ	物語と物語経験	2	森本 浩一	4	水	4	2
ドイツ語学概論Ⅰ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	3	金	3	3
ドイツ語学概論Ⅱ	中級ドイツ文法	2	嶋崎 啓	4	金	3	4
ドイツ文学基礎講読Ⅰ	ドイツ文学基礎講読	2	NARROG HEIKO	3	火	1	5
ドイツ文学基礎講読Ⅱ	ドイツ文学基礎講読	2	NARROG HEIKO	4	火	1	6
ドイツ文学各論Ⅰ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生—— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・ バルンヘルム』(Ⅳ)	2	佐藤 研一	5	木	4	7
ドイツ文学各論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生—— レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・ バルンヘルム』(Ⅴ)	2	佐藤 研一	6	木	4	8
ドイツ文学各論Ⅲ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(5)	2	佐藤 雪野	5	火	3	9
ドイツ文学各論Ⅳ	ドイツ(語)文化圏の文化と歴史(6)	2	佐藤 雪野	6	火	3	10
ドイツ語学各論	フィクションの物語を批評する(1)	2	森本 浩一	5	月	3	11
ドイツ語学各論	フィクションの物語を批評する(2)	2	森本 浩一	6	月	3	12
ドイツ文学演習Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	5	木	2	13
ドイツ文学演習Ⅱ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	6	木	2	14
ドイツ文学演習Ⅲ	カフカを読む	2	森本 浩一	5	水	4	15
ドイツ文学演習Ⅳ	多読による読書体験の獲得	2	菊池 克己	6	火	4	16
ドイツ語学演習Ⅰ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	NARROG HEIKO	5	水	3	17
ドイツ語学演習Ⅱ	ドイツ語学演習Ⅲ	2	NARROG HEIKO	6	水	3	18

科目名：ドイツ文学概論 I / German Literature (General Lecture) I

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：3, **単位数：**2

担当教員：松崎 裕人 (非常勤講師)

講義コード：LB33402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT204J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ語文献講読を通してドイツ文学研究への導入をはかる

2. Course Title (授業題目)：

Einleitung in die Germanistik

3. 授業の目的と概要：

ドイツ文学研究入門書を読みながら、ドイツ語文読解力の養成をはかる。
併せて、補助教材や資料の使用法に習熟する。
その作業を通して、ドイツ文学研究の輪郭について理解を深める。

4. 学習の到達目標：

中級ドイツ語の文献を読解することができる。
特殊辞典・事典を効果的に使うことができる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 講読 (1) およびビューハークンデについて (1)
- 3 講読 (2) およびビューハークンデについて (2)
- 4 講読 (3)
- 5 講読 (4) および (学習) 独独辞典の活用 (1)
- 6 講読 (5) および (学習) 独独辞典の活用 (2)
- 7 講読 (6)
- 8 講読 (7) とまとめ (1)
- 9 講読 (8) および事典の活用 (1)
- 10 講読 (9) および事典の活用 (2)
- 11 講読 (10)
- 12 講読 (11) およびランデスクンデについて (1)
- 13 講読 (12) およびランデスクンデについて (2)
- 14 講読 (13)
- 15 試験とまとめ (2)

6. 成績評価方法：

試験 (60%)、小テスト (20%)、授業での発表 (20%)

7. 教科書および参考書：

テキスト：

Jeßing, Benedikt [u. a.] 『Einführung in die Neuere deutsche Literaturwissenschaft』(J. B. Metzler, 2017 [4. Auflage])
(抜粋、プリント配布)

それ以外のテキストや参考文献については開講時に紹介します。

8. 授業時間外学習：

毎回、テキスト 1 頁ほどの十分な準備が必要です。その段階で不明な箇所を洗い出し、
それを授業時に確認し、復習によって確かなものとしてください。

9. その他：なしオフィスアワー等については開講時に案内します。

科目名：ドイツ文学概論Ⅱ／ German Literature (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB43404, **科目ナンバリング：**LHM-LIT205J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

物語と物語経験

2. Course Title (授業題目)：

Narrative and its experience

3. 授業の目的と概要：

小説・映画・ドラマ・マンガ・ゲームなど「フィクションの物語」は、ますますそのジャンルを多様化させ、文化産業としての規模も拡大して、われわれの日常生活に浸透している。なぜ「現実」と関わらない「物語」が面白いのか、そもそも物語を享受するときわれわれは何をしているのか。この授業では、特に各ジャンルの本質的かつメディア依存的な構造・特性と、それがもたらす「物語経験」のあり様について考察することで、こうした問いを探究してみたい。

4. 学習の到達目標：

物語および物語経験についての一般的理解が深まり、個別の作品享受がより自由で豊かなものになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 導入
- 2 現実とフィクション
- 3 物語の本質とその基本性質
- 4 メディアと物語
- 5 ナラトロジー(1)
- 6 ナラトロジー(2)
- 7 小説の物語経験(1)
- 8 小説の物語経験(2)
- 9 小説の物語経験(3)
- 10 マンガの物語経験(1)
- 11 マンガの物語経験(2)
- 12 映画・アニメの物語経験(1)
- 13 映画・アニメの物語経験(2)
- 14 物語経験と時間性
- 15 まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、出席（40％）と期末レポート（60％）

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

これを機会に、自分がこれまで知らなかった、あるいは敬遠していた作品やジャンルにも接して「物語経験」の幅を広げ、そこで自分が何を「感じるか」を常に反省する習慣を身につけてほしい。できるだけ多様な小説を読み、映画を見、マンガを読むことがこの授業における「時間外学習」である。

9. その他：なし個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp （森本浩一）

科目名：ドイツ語学概論Ⅰ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 3 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓（教授）

講義コード：LB35302, 科目ナンバリング：LHM-LIT206J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：

Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 名詞の性
- 3 名詞の複数形
- 4 名詞の格(1)
- 5 名詞の格(2)
- 6 形容詞の格変化
- 7 形容詞の名詞化
- 8 前置詞(1)
- 9 前置詞(2)
- 10 不定詞
- 11 分詞
- 12 副詞 (1)
- 13 副詞 (2)
- 14 接続詞 (1)
- 15 接続詞 (2)

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』（三省堂）

8. 授業時間外学習：

復習が重要です。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

9. その他：なし

科目名：ドイツ語学概論Ⅱ／ German Linguistics (General Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 3 講時

セメスター：4, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB45302, **科目ナンバリング：**LHM-LIT207J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中級ドイツ文法

2. Course Title (授業題目)：

Intermediate German Grammar

3. 授業の目的と概要：

初級のドイツ文法では習わない事項を取り上げ、ドイツ語の文法をより深く理解することを目指す。

4. 学習の到達目標：

ドイツ語文法の理解を深め、ドイツ語をより正しく読み、書くことができるようになる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 現在形 (1)
- 3 現在形 (2)
- 4 過去形 (1)
- 5 過去形 (2)
- 6 現在完了形 (1)
- 7 現在完了形 (2)
- 8 過去完了形
- 9 未来形 (1)
- 10 未来形 (2)
- 11 接続法 (1)
- 12 接続法 (2)
- 13 接続法 (3)
- 14 語順 (1)
- 15 語順 (2)

6. 成績評価方法：

レポート [50%]・平常点(出席、授業での発言、質疑) [50%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。必ず辞書を持参すること。

参考書：関口存男『新ドイツ語文法教程』(三省堂)

8. 授業時間外学習：

復習が重要です。講義の内容理解を確かめる課題のレポートを提出してもらう。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学基礎講読 I / German Literature (Introductory Reading) I

曜日・講時：前期 火曜日 1 講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO (教授)

講義コード：LB32103, 科目ナンバリング：LHM-LIT219J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading) I

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者のドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第1話

3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第2話

4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第3話

5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第4話

6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第5話

7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第6話

8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第7話

9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第8話

10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第9話

11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第10話

12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第11話

13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第12話

14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第13話

15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第14話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学基礎講読Ⅱ／ German Literature (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 火曜日 1 講時

セメスター：4, 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO（教授）

講義コード：LB42103, 科目ナンバリング：LHM-LIT220J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ文学基礎講読

2. Course Title (授業題目)：

German Literature (Introductory Reading)I

3. 授業の目的と概要：

全学教育で身につけたドイツ語能力を安定させて発展させる。

学習者用に編集された文学作品に触れながら、聴解力や表現力も高める。

4. 学習の到達目標：

A2 レベルのドイツ語力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業説明

受講者の ドイツ語能力確認

2. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 15 話
3. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 16 話
4. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 17 話
5. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 18 話
6. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 19 話
7. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 20 話
8. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 21 話
9. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 22 話
10. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 23 話
11. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 24 話
12. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 25 話
13. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 26 話
14. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 27 話
15. エンツェンスベルガー・アイスマン:アウフトラーク第 28 話

6. 成績評価方法：

毎回の参加、課題、宿題

7. 教科書および参考書：

Enzensberger, H.M./V. Eismann. 2004. Der Auftrag. Langenscheidt.

Rinvolucris&Davis. 2016. 66 Grammatikspiele. Klett.

Kaminski, Diethelm. 1990. Lernideen mit Bildern.

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論 I / German Literature (Special Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 4 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 研一 (非常勤講師)

講義コード：LB54402, **科目ナンバリング：**LHM-LIT306J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(IV)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (IV)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえて、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前年度にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか、見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置きながら、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わい、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Vierter Aufzug, Erster Auftritt

第3回：Vierter Aufzug, Zweiter Auftritt

第4回：Vierter Aufzug, Zweiter Auftritt

第5回：Vierter Aufzug, Zweiter Auftritt

第6回：Vierter Aufzug, Zweiter Auftritt

第7回：Vierter Aufzug, Dritter Auftritt

第8回：Vierter Aufzug, Vierter Auftritt

第9回：Vierter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt

第10回：Vierter Aufzug, Sechster Auftritt

第11回：Vierter Aufzug, Sechster Auftritt

第12回：Vierter Aufzug, Sechster Auftritt

第13回：Vierter Aufzug, Sechster Auftritt

第14回：Vierter Aufzug, Sechster Auftritt

第15回：Vierter Aufzug, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt および総括

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。参考文献は以下の通り。

Goethe, Johann Wolfgang: Götz

von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister

oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten.

Stuttgart: Reclam, 2004.

/柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

8. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論Ⅱ／ German Literature (Special Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：佐藤 研一（非常勤講師）

講義コード：LB64401, 科目ナンバリング：LHM-LIT307J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(V)

2. Course Title (授業題目)：

Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Minna von Barnhelm (V)

3. 授業の目的と概要：

「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえて、十八世紀ドイツを代表するレッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767)を前学期にひきつづき精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのか、見極める。

十八世紀ドイツ戯曲は、『エミーリア・ガロッティ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置きながら、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』の台詞一言一句を味わい、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。

4. 学習の到達目標：

文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし、作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。

第1回：オリエンテーション

第2回：Fünfter Aufzug, Erster Auftritt, Dritter Auftritt, Vierter Auftritt

第3回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt

第4回：Fünfter Aufzug, Fünfter Auftritt, Sechster Auftritt

第5回：Fünfter Aufzug, Sechster Auftritt, Siebenter Auftritt, Achter Auftritt

第6回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第7回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第8回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第9回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第10回：Fünfter Aufzug, Neunter Auftritt

第11回：Fünfter Aufzug, Zehnter Auftritt, Elfter Auftritt

第12回：Fünfter Aufzug, Zwölfter Auftritt

第13回：Fünfter Aufzug, Dreizehnter Auftritt

第14回：Fünfter Aufzug, Vierzehnter Auftritt, Funfzehnter Auftritt

第15回：総括

6. 成績評価方法：

レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。

7. 教科書および参考書：

テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Minna von Barnhelm. Stuttgart: Reclam, 2014.) は、プリントで配布する。参考文献は以下の通り。

Goethe, Johann Wolfgang: Götz

von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister

oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten.

Stuttgart: Reclam, 2004.

/柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。

8. 授業時間外学習：

ギリシャ悲劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学各論Ⅲ／ German Literature (Special Lecture)Ⅲ

曜日・講時：前期 火曜日 3講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野（兼務教員）

講義コード：LB52302, **科目ナンバリング：**LHM-LIT308J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(5)

2. Course Title（授業題目）：

Culture and History of German Cultural Sphere (5)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

今学期は「ドイツ文化圏」としてのブラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、ブラハの多文化性を考察する。

講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. ブラハとドイツ人（講義）
3. ブラハとドイツ人（テキスト購読）
4. ブラハとユダヤ人（講義）
5. ブラハとユダヤ人（テキスト購読）
6. ブラハのドイツ文学（講義）
7. ゴーレム伝説（講義）
8. 映画ゴーレム
9. マイリンクのゴーレム 1（テキスト購読）
10. マイリンクのゴーレム 2（テキスト購読）
11. マイリンクのゴーレム 3（テキスト購読）
12. マイリンクのゴーレム 4（テキスト購読）
13. マイリンクのゴーレム 5（テキスト購読）
14. マイリンクのゴーレム 6（テキスト購読）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

7. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

8. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：なし進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文学各論Ⅳ／ German Literature (Special Lecture)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：佐藤 雪野（兼務教員）

講義コード：LB62304, **科目ナンバリング：**LHM-LIT309J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

ドイツ（語）文化圏の文化と歴史(6)

2. Course Title（授業題目）：

Culture and History of German Cultural Sphere (6)

3. 授業の目的と概要：

広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。
その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。
今学期は「ドイツ文化圏」としての中欧に注目し、「中欧」概念を検討する。
講義のほかに、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. 学習の到達目標：

1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。
2. ドイツ語の読解力を向上させる。
3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

1. オリエンテーション
2. 中欧とは（講義）
3. Mitteleuropa＝中欧？（講義）
4. 中欧論を読む1（テキスト講義）
5. 中欧論を読む2（テキスト講義）
6. 中欧論を読む3（テキスト講義）
7. 中欧論を読む4（テキスト講義）
8. 映像で見る中欧1
9. 映像で見る中欧2
10. エゴン・エルヴィン・キッシュについて（講義）
11. キッシュの作品を読む1（テキスト講義）
12. キッシュの作品を読む2（テキスト講義）
13. キッシュの作品を読む3（テキスト講義）
14. キッシュの作品を読む4（テキスト講義）
15. まとめ

6. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

7. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

8. 授業時間外学習：

予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

9. その他：なし進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB51302, **科目ナンバリング：**LHM-LIT311J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

フィクションの物語を批評する (1)

2. Course Title (授業題目)：

Practice in criticism of fictional narrative (1)

3. 授業の目的と概要：

様々なフィクションの物語を実際に読んだり見たりして、その解釈を行い「批評」的なテキストを書く訓練を行う。特に、メディアの特性による物語経験の違いに焦点をあて、形式と内容の両面から作品について論述する方法を検討する。参加者の発表をメインとし、参加者相互および教員との討議によって授業を進める。

4. 学習の到達目標：

物語のメディア的側面に対する感受性が高まり、批評を書く技倆が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入
2. メディア比較
3. メディア比較
4. 自由課題批評
5. 自由課題批評
6. 自由課題批評
7. 映画を批評する
8. 映画を批評する
9. 小説を批評する
10. 小説を批評する
11. マンガを批評する
12. マンガを批評する
13. 映画を批評する
14. 映画を批評する
15. 長篇小説を批評する

6. 成績評価方法：

おおむね、各回の批評文の提出と討議への参加（80％）およびレポート（20％）

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

自らの批評文等の指定された提出物は、事前に準備し、必ず指示された時間までにメール添付で提出すること。

9. その他：なし個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ語学各論／ German Linguistics (Special Lecture)

曜日・講時：後期 月曜日 3 講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB61304, 科目ナンバリング：LHM-LIT311J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

フィクションの物語を批評する (2)

2. Course Title (授業題目)：

Practice in criticism of fictional narrative (2)

3. 授業の目的と概要：

様々なタイプの物語作品を対象として、実際に批評的テキストを作り出す訓練を行う。作品解釈において、形式や内容のどのような点に着目し、どのような言葉で自らの解釈を表現するかを、討議の中で検討してゆく。

4. 学習の到達目標：

作品を批評する能力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入

2. 批評演習 (1)

3. 批評演習 (2)

4. 批評演習 (3)

5. 批評演習 (4)

6. 批評演習 (5)

7. 批評演習 (6)

8. 批評演習 (7)

9. 批評演習 (8)

10. 批評演習 (9)

11. 批評演習 (10)

12. 批評演習 (11)

13. 批評演習 (12)

14. 批評演習 (13)

15. まとめ

6. 成績評価方法：

授業における発表、各回の批評文の提出と討議への参加 (70%) および最終的な批評テキストの完成 (30%)

7. 教科書および参考書：

必要に応じて授業中に指示する。

8. 授業時間外学習：

自らの発表に向けた調査・執筆のための時間外学習が必要である。また毎回他の参加者の発表への論評の提出も求められる。

9. その他：なし個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学演習 I / German Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：5, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB54208, **科目ナンバリング：**LHM-LIT323J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：

Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：

現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1430-1433)
- 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1434-1437)
- 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1438-1441)
- 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1442-1445)
- 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1446-1449)
- 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1450-1453)
- 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1454-1457)
- 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1458-1461)
- 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1462-1465)
- 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1466-1469)
- 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1470-1473)

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社

8. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学演習Ⅱ／ German Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 木曜日 2 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：嶋崎 啓 (教授)

講義コード：LB64205, **科目ナンバリング：**LHM-LIT324J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：

Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：

現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. 学習の到達目標：

中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1 ガイダンス
- 2 中高ドイツ語入門 1 (発音)
- 3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)
- 4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)
- 5 中高ドイツ語文学講読 1 (1474-1477)
- 6 中高ドイツ語文学講読 2 (1478-1481)
- 7 中高ドイツ語文学講読 3 (1482-1485)
- 8 中高ドイツ語文学講読 4 (1486-1489)
- 9 中高ドイツ語文学講読 5 (1490-1493)
- 10 中高ドイツ語文学講読 6 (1494-1497)
- 11 中高ドイツ語文学講読 7 (1498-1501)
- 12 中高ドイツ語文学講読 8 (1502-1505)
- 13 中高ドイツ語文学講読 9 (1506-1509)
- 14 中高ドイツ語文学講読 10 (1510-1513)
- 15 中高ドイツ語文学講読 11 (1514-1517)

6. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

7. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社

8. 授業時間外学習：

前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

9. その他：なし

科目名：ドイツ文学演習Ⅲ／ German Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 4 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：森本 浩一（教授）

講義コード：LB53402, 科目ナンバリング：LHM-LIT325J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

カフカを読む

2. Course Title (授業題目)：

Reading Kafka

3. 授業の目的と概要：

フランツ・カフカの小説作品を対象として、ドイツ文学作品を原文で読解・解釈する訓練を行う。

4. 学習の到達目標：

ドイツ文学作品の読解力が向上する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 導入

2. テキスト講読(1)

3. テキスト講読(2)

4. テキスト講読(3)

5. テキスト講読(4)

6. テキスト講読(5)

7. テキスト講読(6)

8. テキスト講読(7)

9. テキスト講読(8)

10. テキスト講読(9)

11. テキスト講読(10)

12. テキスト講読(11)

13. テキスト講読(12)

14. テキスト講読(13)

15. まとめ

6. 成績評価方法：

おおむね、予習と授業への参加（80％）とレポート（20％）。

7. 教科書および参考書：

テキストは教師が準備する。

8. 授業時間外学習：

毎回、事前に訳読の準備をして出席すること。

9. その他：なし個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取ること。

xkc-m2rt@tohoku.ac.jp（森本浩一）

科目名：ドイツ文学演習Ⅳ／ German Literature (Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 火曜日 4 講時

セメスター：6, **単位数：**2

担当教員：菊池 克己（非常勤講師）

講義コード：LB62404, **科目ナンバリング：**LHM-LIT326J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：

多読による読書体験の獲得

2. Course Title (授業題目)：

Gaining reading experience by extensive reading

3. 授業の目的と概要：

ドイツ語で文学作品を読もうとすると、文法を分析したり、訳語、訳文を考えだすために多くの時間とエネルギーが費やされる。それはドイツ語を知識として知るには有益かもしれないが、そこに注力するあまり、何かに心を動かされるという肝心の読書体験がなおざりにされていないだろうか。だとしたら本末転倒、文学を経験するどころの話ではない。そこでこの授業では、多読を通して読書の魅力を再発見し、本来の読書体験を積み重ねることで、ドイツ語での読書力を養う。

4. 学習の到達目標：

- ・訳読ではない、ドイツ語で「読書」する楽しさを知る。
- ・ドイツ語での読書を習慣化する。
- ・読みの流暢さを獲得する。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

自分の能力にあった本を自分で選び、自分のペースで読む。その感想などを簡単に記録する。また、自分が読んだ本を紹介し、情報交換する。

- 1 オリエンテーション：多読とは何か？
- 2 多読実践 1
- 3 多読実践 2
- 4 多読実践 3
- 5 多読実践 4
- 6 多読実践 5
- 7 多読実践 6
- 8 ここまでの感想、自分の多読を発展・深化させるために目標を立てる
- 9 多読実践 7
- 10 多読実践 8
- 11 多読実践 9
- 12 多読実践 10
- 13 多読実践 11
- 14 多読実践 12
- 15 読書経験を振り返って

6. 成績評価方法：

平常点 [100%]

7. 教科書および参考書：

教室で指示

8. 授業時間外学習：

隙間時間を利用するなど、自分で本を選んで多読に取り組む。訳読ではなくドイツ語での「読書」を習慣化する努力を。

9. その他：なし

科目名：ドイツ語学演習Ⅰ／ German Linguistics (Seminar)Ⅰ

曜日・講時：前期 水曜日 3講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO（教授）

講義コード：LB53309, 科目ナンバリング：LHM-LIT327J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)Ⅰ

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Wohnen I - Haustypen identifizieren
2. Wohnen II - Zimmer suchen
3. Wohnen III - Informationen erfragen
4. Wohnen IV - Literarischer Text
5. Wohnen V - Zeitungsinserat
6. Wohnen VI - Sachtext
7. Wohnen VII - Gedicht
8. Wohnen VIII - Intonation und Satzakzent
9. Wohnen IX - Präpositionen mit Dativ und Akkusativ
10. WohnenX - Konjunktionen
11. Essen I - Speisen und Getränke benennen
12. Essen II - Bilder Beschreiben
13. Essen III - Bestellen und Bezahlen
14. Essen IV - Literarischer Text
15. Essen V - Speisekarte

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：なし教材の事前購入を勧める

科目名：ドイツ語学演習Ⅱ／ German Linguistics (Seminar)II

曜日・講時：後期 水曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：NARROG HEIKO（教授）

講義コード：LB63305, 科目ナンバリング：LHM-LIT328J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

ドイツ語学演習Ⅲ

2. Course Title (授業題目)：

German Linguistics (Seminar)I

3. 授業の目的と概要：

2年間養ったドイツ語能力をヨーロッパ基準の中級教材を用いて更に安定させて高める。

読む・書く・聞く・話すの基礎的能力を体系的に向上させる。

4. 学習の到達目標：

B1レベルのドイツ語を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. Essen VI - Sachtext
2. Essen VII - Orthographie
3. Essen VIII - Vokal- und Konsonantenartikulation
4. Essen IX - Nomen ohne Artikel, Possessivartikel
5. Essen X - Personalpronomina
6. Finanzen I - Fotos beschreiben
7. Finanzen II - Witze nacherzaehlen
8. Finanzen III - HV-Text
9. Finanzen IV - Sachtext
10. Finanzen V - Satzakkzent
11. Finanzen VI - Konjunktiv II
12. Finanzen VII - Präpositionen mit Dativ und Akkusativ
13. Finanzen VIII - Präteritum und Perfekt
14. Finanzen IX - Nebensätze
15. Finanzen X - Gestik-Mimik-Aussage

6. 成績評価方法：

授業参加、毎回の課題、宿題に基づいて評価する

7. 教科書および参考書：

Stufen International 2

8. 授業時間外学習：

定期的に宿題を出す

9. その他：なし教材の事前購入を勧める